

たぬき道 TANUKI-Michi

JULY 1993

ISSUE NO.1

TANUKI CLUB, THE RACCOON DOG INFORMATION NETWORK

род гбрной лисы Raccoon-like dog 狸子 Nyctereutes procyonoides

▼△▼△▼目次▼△▼△▼

- I. 「タヌキクラブ」と『たぬき道』について 佐伯 緑
- II. 地域ニュース 「岐阜県白川村」&「徳島県小松島市」 サクセス・7/東京新聞
- III. 狸囃子 (壺) 「タヌキの作ったコピー」 加藤 輝治
- IV. 簡単なタヌキのはかり方 (2) 「頭骨測」 佐伯 緑
- V. タヌキの頭骨って? 佐伯 緑
- VI. お便り情報コーナー 五十嵐氏ほか
- VII. 書籍紹介 瀬川 也寸子
- VIII. 掲示板 (LATRINE BOARD)・編集便り・著者紹介

▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼

「タヌキクラブ」と『たぬき道』について

佐伯 緑

お陰様で当初見込んでいた20名を大幅に上回る38名7/2団体に入会して頂き、タヌキクラブ発足となりました。引き続き会員募集いたしますので、お知り合いでタヌキに興味がありそうな方がいらっしゃれば声をかけてみて下さい。名称はアンケート結果(表1)より、タヌキクラブで行くことにします。

表1. 名称アンケート結果

提案無し	20
タヌキクラブ 賛成	6
タヌキネットワーク	3
ポンボコクラブ	1
TANURABU	1
タヌキネット	1
タヌキ自然フォーラム	1
た"ぬ"〜 (冗談)	1

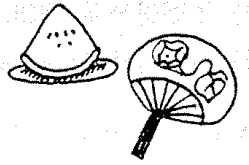
アンケート結果では、会の活動として情報交換及び情報収集が大勢を占めました。今後これらを中心とする方向で進めますが、会員一人一人の個性を生かした楽しい会にして行きたいと思います。

ニューズレター『たぬき道』は、当面活動の中心になります。会員の方は年に一度は投稿して頂くよう宜しくお願いします。私の友人で高校時代に剣道部で鑄を削り合ったWWFJの法山会員は、『たぬき道』を「タヌキ」と武道の一つであるがごとく発音しましたが、「タヌキ」即ち「林床や藪によく見られる縦横斜めと網状に走っているタヌキが頻繁に通る道」のことです。頻繁に訪れることによってネットワークを作るという意味が込められています。様々な分野の人がタヌキや野生生物について語り考え、そしてユーモアに満ちたニューズレター目指し、ご尽力をお願いします。調査報告、新聞記事、マンガ、エッセイ、文献紹介、見解、提案、情報の募集や提供、詩、スケッチ、イラストなど、どしどし投稿して下さい。また、掲示板の名前をBULLETIN BOARDからLATRINE BOARD (タメフン板) にしました。情報のやり取りに使って下さい。

TANUKIOLOGICAL ABSTRACTS (タヌキ文献要約集)の方はデータベースに入力し始めたところです。既に文献を送って下さった方にはお礼申し上げます。引き続き、皆様にもご協力をお願いします。また、文献の要約(英文&邦文)を手伝って下さる方がいらっしゃればタヌキクラブまでお知らせ下さい。

「タヌキの作ったコピー」

加藤 輝治



今度の仕事は、オニオンスープのテレビCFだった。臨海の生産地のタマネギの甘さも匂いもそのままパックしてキッチンに、というのがコピーの謳い所だった。コピーライターは例によって熱っぽい頭を家にまで持ち帰りビール漬けになりながら四苦八苦しした。

彼をこの苦しい仕事に誘ったのは学生時代に見た一本のCFだった。ベトナム帰りの汚れた兵の下船風景。波止場で迎える家族との抱擁シーン。やがて人影消えたタラップを降りてくる黒人兵、彼を待つ人はいない。くしゃくしゃの煙草に火をつけ思いっきり吸いこむ。波間にほうられた空箱がしだいに水をすって広がる。見えてくる字をズームアップ、「ラッキーストライク」

彼はあの日の衝撃を求めてヒューマンコピーを作ってきた。いつかラッキーストライクを越したいと思ってきた。

仕事にならなかつた徹夜明けの朝、家前の空地に出て煙草をふかしていた。そのとき、隅にある下水溝のふたを押し開けてこげ茶の犬が姿を現した。(何か捕りに潜っていたのだろう)しかし、つづいて子犬が二匹、また親犬が一匹と出てきて、彼を驚かせた。四匹は辺りに気を配り地面を嗅ぎながらチョコチョコと歩きだした。(待てよ)コピーライターは目をこらして、太い脰、短い足、黒っぽい目元、白い鼻筋を見定めて、声をあげてしまった。

「マ、マ、マ、マ、マ、タヌキだよお。」

やがて、バジヤマ姿の妻と小さな娘二人を連れて出てきた彼はベーコンとかまぼこをもう一つの家族に向けてほうってやった。いちばん大きな奴と子タヌキは一せいに草むらにとびこんだが、明らかにメスとわかる柔らかな顔つきの小さいほうは、ふみとどまってベーコンをくわえ草むらへ入っていった。

「ギャーッ」ネコの叫び声に似たのに時々、太いのが混じっているのは、争奪戦にパパまで加わっているにちがいなかった。

何度ほうってやっても同じことだった。子と親父タヌキが草から首をのばして見ている前を、メスだけがくわえに出てきて草むらへ運んだ。

バジヤマ姿のままの三人の肩に手をやって、コピーライターはタヌキたちから目を放すことができなかった。こんな住宅街の早朝の空気の中で、彼の家族だけが不思議な感動に包まれて立ちつくしていた。

オニオンスープがで上がるのを待ちきれず、子供たちがママの手元をのぞきにくく、パパもいく。何度かくり返されて、やっとテーブルに載った鍋から立ちのぼる湯気を鼻孔いっぱい吸った三人はママをふり仰ぐ。ママは天使の笑みで彼らを見返す。

放映されたコピーライターのCFは、家族の温もりがオニオンスープの味わいをしみじみ伝えてくる、と好評を得た。中でも、パパ混じりで何度もママの手元を見にくくところは適度のユーモアと商品的刺激を感じさせるということで、その評判どおりに宣伝効果も上がったらしく、スポンサーからスタッフ一同にボーナスが出たくらいだった。いっぽう、空地のタヌキ家族は浮気なもので、二、三日で近所他の家族が気づいたころには、もうぶつり姿を見せなくなっていた。一戦を終えたある日、コピーライターは空地の下水溝のふたをぼんやりと見ていた。ぼつんと印象に残っているのは、やはり、草から首だけをのばしていたでっかいオスタヌキのことだった。

どうやらよい仕事ができたとはいふ満足感を味わうまもなく、コピーライターは、そこはかとなき寂しさをかみしめていたのは、どうしたことであつたのだろう。



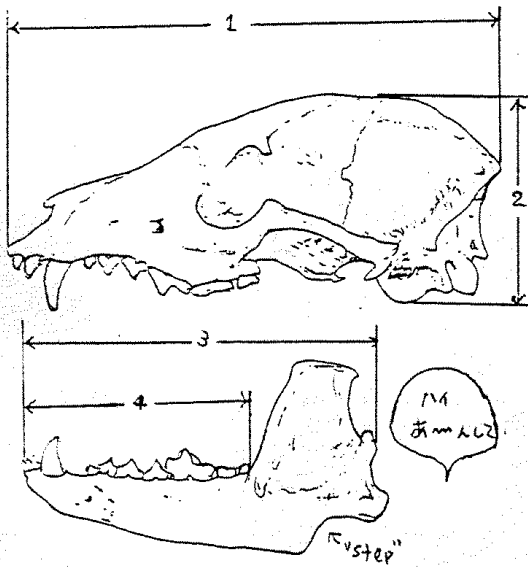
簡単なタヌキのはかり方 (2) 「頭骨測」

佐伯 緑

野外で頭骨を拾うことは高個体密度の所以外では滅多にないと思うが、その好運に見舞われた時や、死体から標本を取った時は、一応測っておきたいものだ。ノギスがあればいいことなし。普通の物差しでも紙の上で投射してきっちり測ればミリ単位まで出るだろう。以下に図と合わせて測る目安、及び一例を挙げておく。勿論、このやり方が唯一完全なものではない。

- 1) 全長 (GREATEST LENGTH OF SKULL)
- 2) 脳函高 (HEIGHT OF BRAIN CASE)
- 3) 下顎長 (MANDIBULAR LENGTH)
- 4) 下顎歯列長 (MANDIBULAR TOOTH ROW)
- 5) 吻幅 (LEAST BREADTH OF MAXILLA)

Skull of a raccoon dog, *Nyctareutes procyonoides*



タヌキの頭骨って？

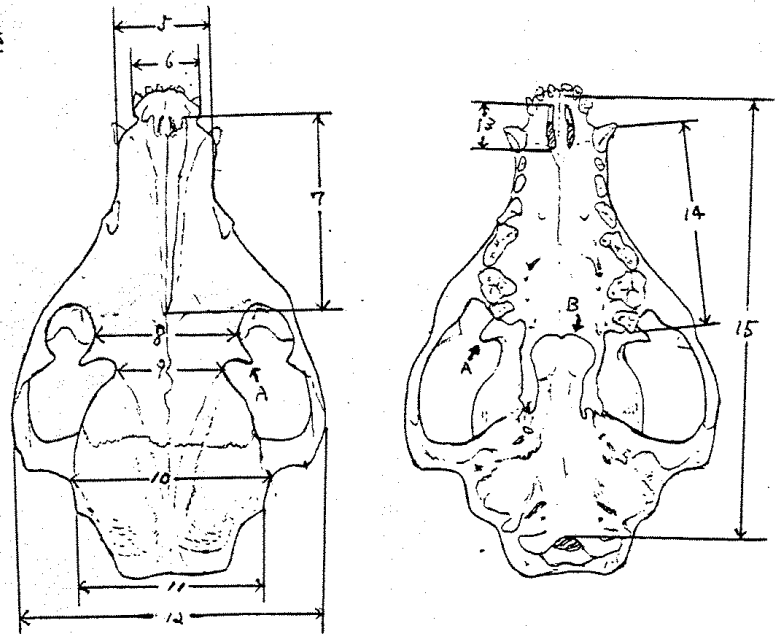
佐伯 緑

もしタヌキの頭骨を見たことのない人が頭骨を拾って人間の言葉で「タヌキ」だと書いていない場合、自然の言葉での「タヌキ」を判読しなければならない。哺乳類学や分類学などを専門にやっている人には邪道と言われそうだが、私はKEY-OUTしない(できない)ので見た感じでやってしまう。

- 6) 鼻幅 (NASAL BREADTH)
- 7) 鼻骨長 (NASAL LENGTH)
- 8) 前眼窩間幅 (ANTERIOR INTERORBITAL BREADTH)
- 9) 後眼窩間幅 (POSTERIOR INTERORBITAL BREADTH)
- 10) 脳函幅 (BREADTH OF BRAIN CASE)
- 11) 乳様突起間幅 (MASTOID BREADTH)
- 12) 頬骨弓幅 (ZYGOMATIC BREADTH)
- 13) 門歯孔長 (LENGTH OF PALATAL FORAMEN)
- 14) 上顎歯列長 (MAXILLARY TOOTH ROW)
- 15) 口蓋長 (BASILAR LENGTH)

EXAMPLE (mm) Ad. ♂

1=107.1, 2=40.3, 3=77.1, 4=51.4, 5=20.4,
6=14.5, 7=38.0, 8=23.1, 9=22.4, 10=41.6,
11=41.1, 12=66.3, 13=5.4, 14=41.7, 15=95.3



まず、下顎の「エラ」のところに「STEP」状のくぼみがあればたいていタヌキだと思う(頭骨測図参照)。北米ではUrocyon (gray fox) にこれが見られるが日本にはいない。イヌではカーブが緩やかだし、アカギツネやアナグマやアライグマやネコ科には見られない。

下顎の見つからない場合も野外では多い。アナグマにはSAGITTAL CRESTというウルトラマンの頭にある(というかウルトラセブンが飛ばす)ものがはっきりと盛り上がっている

(特に年長のオス)。また、イタチ科(イタチ、テン、アナグマ)の口吻は短く、真横から見ると犬歯からさほど出ていない。タヌキはイヌ科では短い方だが、外見のよく似たアライグマも頭骨はイヌ科特有の尖った口元ではない。それから頭骨のてっぺんにあるV字型の線 (TEMPORAL RIDGES)の底が、前頭骨と頭頂骨の接するところの横に走る合わせ目 (FRONTO-PARIETAL SUTURE)の近辺に来るのがアカギツネ、イタチ科ではずっと前、タヌキでは後方になる。さらに、頭骨を裏から見たとき、前頭骨の突起 (POSTORBITAL PROCESS) (図のA) が口蓋骨の穴状になる端 (図のB) とほぼ一線に並ぶのがタヌキ、突起が後方になるのが基本的にキツネ及びイヌである。イヌの頭骨ではブリードによって相当相違が見られるかも知れない。頭骨の正確な同定には色々な部分の計測の比率や角度など必要だろ

うが、それは分類学の専門家に任せよう。

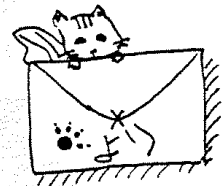
イヌ科の歯数は基本的に上20+下22=42だが、タヌキにはバリエーションがあるらしい。しかし、一般にイタチ科は前臼歯及び臼歯がイヌ科より少なく合計38以下、ハクビシンとアライグマは20+20=40、ネコ科は30以下といえる。また、アライグマの上顎第四前臼歯(後ろから三つ目の歯)は、タヌキの細長い三角形に比べ丸い。

以上のことは絶対的ではなく、私の独断や個体差や亜種差や雌雄差や地域差や齢差などで色々偏差がある。あくまで同定のヒントであって、要は臭いででも味ででも同定できればいいと思う。なにか他にいい単独KEYがあれば是非タヌキクラブまで知らせて欲しい。

タヌキの前に道はない タヌキの後ろに道は出来る・・・この^い蓋い同定のため。



お便り情報コーナー



★その1 5月の末頃 五十嵐正俊さんよりこんな情報をいただきました。
 千葉県の千倉(ちくら)にある農家からで、約5アール程の小さなトウモロコシ畑なのですが 昨年 タヌキにやられて全滅だったそうです。 タヌキは集団できて、1頭がトウモロコシを倒し、みんなで実をムシャムシャとやってしまうそうです。
 そこで どうやって タヌキからトウモロコシを守ったらよいかという問い合わせだったそうです。 そこで、1m程の柵を囲い50cmくらいまでトタンか板をはりめぐらし、登らないように工夫をしたためしてみるとのことでした。結果はまた後日お知らせ下さるとのことでした。

これは別の話しですが 昨年森林総研 関西支所に同じような問い合わせがありました。農作物がタヌキにやられて困っているということでした。場所は小豆島で。そこでは電柵を高さも考えて設置してみるというお話しでした。その後の結果は まだ聞いてはおりませんが、どうやら効果はあったのではないのでしょうか - (?)

★その2 京都の知り合いの獣医さんから こんなお便りをいただきました。

釣りの大好きな先生なのですが 海釣りのシーズンになるまでは山へよく出掛けられるそうなのです。先生の 秘密の場所 (くわしくは教えていただけませんでした。福井の方です) そこで数年前からタヌキ達と タヌキ王国(?) を築いておられたそうなのですが、昨年の狩猟圧と 相次ぐ交通事故死の為、現在では 全く姿をみなくなってしまうということなのです。確認頭数は 一時期、20頭、しかし、先生の話 では 30頭はいたはずだということなのです。 タヌキ達との思い出の写真も数枚送って下さいましたので その一部を御紹介致します。

※ 交通事故が増えたということは交通量が増え環境が悪化したことを意味しているのではないのでしょうか。その上の狩猟圧、タヌキ達は全滅したのではなく 別のよい場を求め一部は移動して生き残っていると考えたいのですが……。





★その3 ドイツで研修中の高柳氏（京大演習林）の手紙より抜粋

「"タヌキクラブ"発足おめでとうございます。〈中略〉目的の文章について、私なりの解釈と要求をいれて書き直しますと『タヌキに興味のある人々を繋ぐネットワークを作ることによって、タヌキ及びその関連事項の知識・情報をデータベース化して相互交換を促進するとともに、各地の活動・研究の交流を盛んにし、もって、タヌキ研究の発展とタヌキ-人間関係の将来に資する』というようになります。10分くらいで考えた文案ですので大したものではないですが、簡単に説明しておきます。

貴公の原文ですとネットワークの目的が情報の蓄積にあるようで、ネットワーク本来の情報の収集交換を促すという役割がいささか弱く感じられます。"データベース化"はすでに日本語として定着していますのでそれを用いました。また、知識情報は一語ではなくて知識と情報だろうと思いましたが、"."を入れました。問題提起や討論については入れたかったのですが、文章がうまくつながら

ないので、"活動・研究の交流"の一文で代替可能であろうということで外しました。"タヌキ-人間関係"は、現今、研究だけが目的という団体の成立はむずかしくなりつつありますし、研究だけが目的で野外人が気楽に参加するというわけにもいきません。クラブの会員は、多かれ少なかれタヌキが好きなのだろうと思い、タヌキの現実とつながる部分、いわば"たぬため倶楽部"的要素を入れたいと思ってつけ加えました。表現は稚拙ですが、"タヌキの保護"や"タヌキと人間の平和な関係"では、やや問題もあるかと思ひ（私はまだタヌキ汁を食べたことがない）、抽象的な表現をとりました。最後に"尽くす"は、それをあがめ、それに専心するという雰囲気という言葉ですので、こういう時の常套用語"資する"を用いました。以上、勝手な意見ですが、三人の酒の肴くらいのはなるかと思ひます。

また、クラブの名称ですが、私もいろいろ考えました。例えば、"タヌッコクラブ"（オニャンコクラブ（古い）の向こうを張る）、"タヌキの穴"（タイガーマスクの向こうを張る）、"タヌキの友"（地球の友の向こ

うを張るのはむずかしい)、「タヌキ連合」・「タヌキ組」(関東連合・山口組の向こうを張る?/実態には即しているかもしれないが、人を集めるには問題が多い)、「タヌキを知る会」(タヌキ汁の会とまちがえられかねない)などは没です。多少ましなのでも、「タヌキネットワーク」、「タヌキネット」などの、ありきたりのものしかありません。むしろ、これはニュースレターの名称にいいかもしれません。「たぬき道」はどうもいただけません。せいぜい「タヌキ情報」くらいにしたら、と思います。以上、これも酒の肴になるでしょう。」

=====書籍紹介=====

『たぬきの冬』

石城謙吉著 朝日新聞社

著者は動物生態学者であり、北大の苫小牧演習林長でもあるが、この本にはその演習林で出会った様々な生き物達とのエピソード等がつづられている。その中に、この題名にもなっている『たぬきの冬』がある。

この中には、厳冬の中で寒さとたたかい、一生懸命に暮らすエゾタヌキの姿が、著者の観察も交えながら興味深く描かれている。この本を通して著者の限らない自然への愛情が伝わってくる。最後に、あとがきより心に残った部分を紹介したいと思う。

「野生の世界を理解し、またその滅亡を防ごうとすることは、人間のうちなる自然に目覚め、かつて人類があとにしてきた生き物としての故郷を心に呼び戻すことなのだ。

だから理屈抜きでただ生き物がすきでたまらず、またそれが減びるのが哀しくてたまらない人々が、その想いを周囲に向かって素直に表明することは、人間がいま忘れ去ろうとしているある大切なことを、人々に思い起こさせるものなのだと私は思っている。」

(文責 瀬川也寸子)

LATRINE BOARD

タヌキクラブではタヌキによる作物被害及びその対策方法についての情報を探しています。

1993.9.19-25. International Wildlife Management Congress, at Cariari Hotel, San Jose, Costa Rica (詳細は、IWMC Secretariat Director, The Wildlife Society, 5410 Grosvenor Lane, Bethesda, MD 20814, USA. Tel. 301-897-9770まで)

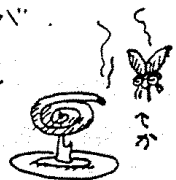
1993.9.27-29. 日本哺乳類学会1993年度大会。青森県弘前大学教養部にて。(詳細は、〒036 青森県弘前市文京町 3番地 弘前大学理学部生物学教室 日本哺乳類学会1993年度大会準備委員会 小原良孝 Tel. 0172-36-2111 内線 4271または 4284まで。)

タヌキクラブでは、会員と原稿を随時募集しています。入会案内(たぬき道0号または英文入会要項)は事務局まで。

本欄では皆様からの伝言や催し物の紹介及び宣伝、捜し物などの掲載依頼をお待ちしています。

編集便り

原稿は7月初めに(700ペ-エ-)活字に
あてたのですか、私の都合で発行
が 遅れました。7月(ごめんばい)。
タヌキに誘われ事務局が
近いうちに千葉に移す予定
です。(2)



著者紹介

佐伯 緑 (SAEKI, MIDORI) = アメリカに残してきたBFは皆Canis familiarisだというHomo sapiens ignorantus。紀州犬を弟分に持つ。
加藤 輝治 (KATO, TERUJI) = 奈良県在住。日本ペンクラブ会員。日本動物愛護会会員。
瀬川 也寸子 (SEGAWA, YASUKO) = 幼児とタヌキの扱いに長けている。このニュースレターのイラストも描く。かもしかの会推薦の晴女。

タヌキクラブ事務局
〒567 大阪府茨木市南春日丘 2丁目6-22
佐伯方
TEL 0726(25)9354 FAX 0726(76)0680
郵便振替口座 大阪8-251165